

小栗伝説の残る六会を巡る地名探訪

2023.3.22、3.29 布施 克彦 記



花応院

令和4年度第3回目の地名探訪として、六会地区の東部に位置する亀井野、西俣野地区を歩いた。コースの設定に当たっては、当初付近の市民の家での昼食を考えたが、飲食は出来ないと断られ、境川遊水地公園における野外昼食を前提とするコースの組み立てとなった。

実施予定の2023年3月下旬は天候が不安定な時期なので、日程が近づく中で天気予報の動向に神経を尖らせた。幸い1回目の22日は好天に恵まれたが、翌23日は雨となり、2回目は29日に実施変更となった。

今回探訪のメインテーマは、この地に残る小栗判官・照手の姫伝説で、それに纏わるスポットを巡る。小栗判官のモデルは実在の人物のようだが、そこから紡ぎ出された伝説や物語はあくまでフィクションだ。物語の舞台となるスポットには史実が伴わないため、その点が普段の西俣野の花応院探訪とは違うガイドの要領が求められた。

史実を離れた探訪スポットに興味を持ってもらうためには、参加者に小栗伝説の概要や物語の知識をある程度知らせなくてはならない。それらはガイド資料に書かれてはいるが、朝の集合時に配布したばかりなので、多くの参加者にはそれをジックリと読む時間が与えられていない。

閻魔大王像や、縁起絵図、地獄変相十王図など、小栗伝説に関わる諸物が保存されている西俣野の花応院では、建物の中に入ってそれらを拝観させていただくことになった。その前に、小栗伝説の背景や物語のあらすじを、参加者たちにどのタイミングでいかに解説すべきか。その点を工夫することが、今回の案内のポイントとなった。

お彼岸の多忙な時期であったにも関わらず、花応院のご住職や若方丈には、快く対応していただいた。関連諸物を実際見てもらうことで、参加者の小栗伝説や物語への関心も深まったのではないだろうか。花応院で毎年1月16日と8月16日の2回開かれる絵解きの会に参加を希望する方が、今回の参加者の中から出るかもしれない。



←御嶽神社

今回歩いた亀井野・西俣野地区は、北の湘南台地区や南の善行地区のような宅地開発が進んでおらず、相模野台地や境川沿いの低地には農地が広がっている。高台と低地の境界となる急崖には深い森が残り、そこを往時の姿を残した坂道が貫いている。

2回目の探訪日が延期されたお陰で、旧家の背後裏山を埋め尽くした満開の桜を楽しむこともできた。今回の探訪に参加されなかった方にも、自然の残る亀井野・西俣野地区の探索をお勧めしたいと思う。

(参加者：2日間で58名)